
3 6 5 D a y s

秋吉結城

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

365Days

【Nコード】

N9278H

【作者名】

秋吉結城

【あらすじ】

高校の卒業式、主人公は留年。みんなが前に進むなか突然幼馴染に告白される、ただその意味は・・・

第一話 はじまり

しんしんと すべてを隠してく
聞こえるのは その結晶のぶつかり合う音だけ
目に映るのは まっさらな 白
君の色

このすべてを隠す雪のように
僕のたどった足跡も
かき消されてしまえばいいのに

俺は屋上にいた

「別に永遠の別れってわけじゃねえのに、あんなに泣いちゃって」
下を見れば別れを惜しむ生徒たちの声

3月20日 今日は卒業式だ

“俺以外の”

遅刻、無断欠席、喫煙、喧嘩etcを繰り返してたら
いつの間にか卒業できなくなってた、

あたりまえだけど

だってつまんねえし

狭い部屋で机並べてみんなでお勉強

昔から息が詰まるほど嫌いだった

それでもそれなりに、やっぱ長男だけあって

ある程度までは頑張ってたんだ

親の期待に添えるように

でもさー

人間だれでも限界があるし
上には上がいるんだよね

14の時からいから何やってもダメになってきて
親の期待が重くて

重くて、重くて、重くて
グレた

それから落ち続ける人生
最近は親と口もきいてない
だめになつた俺を

ただ白い目で見てる
みんな先に進んでく
俺を置いて

「どつかいきてえー・・・」

煙草に火をつけて
空見上げて寝転がる
屋上じゃこれにかぎるね

つまんないね、世の中

「あー、また吸ってるー」

「つつー!!」

・・・・・・

あせつた、焦つて煙草素手で消しちまった
あつちい;;;

「なにしてんの？だいじょうぶー？」

へらへら笑いながら近づいてくる

俺の・・・お隣さん、ってゆか幼馴染

「お前こそこんなとこで何してんの？柚季」

「んー？屋上見たらヒロトがたそがれてたからー、会いに来た」

「笑いに來たんだろ？」

「笑ってほしいの？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

なんだ、あれだよな

女って口で勝てる気しねえよな、うん

「あーあ、一緒に卒業したかったなー。なんで留年なんてしたんだよー」

むうっとほほを膨らませてこちらを睨んでいる

いやいやいや、俺だってしたくねーし、いや、なかったし

「まあヒロトらしいけどー」

返答に困ってたらなかなか失礼なことを言われた
しばいたるかこいつ・・・

「・・・写真とか撮りにいかなくていいのか？」

「ん？うん、美貴達とはもう撮ってきたよー。」

ってゆかこいつのこの抜けた話し方はなんとかならんのか？

「ヒロトに話があったから探してたんだよー。」

「んあ？」

そう言っつていつになく真面目な顔して見つめられた

：正直ちよつとドキツとした（笑）

だつてこいつ見た目は悪くねーもん

何言っつてんだ・・・俺；

「んで？なによ」

「・・・・・・・・」

話があるつて言っつたのは柚季なのに
なかなか言いださねえ・・・

「どしたん？」

「あの・・・さ」

まさか好きですとかべたな展開に・・・
なるわけな・・・

「・・・私と付き合って？」

・

・

一瞬にして頭が真っ白になった

第二話 一歩

「・・・私と付き合って？」

ほんとに・・・いったいどんなべたな展開だよ
いったいこいつは何を言っている？

付き合うつて

そりゃ小せえころは一緒にお風呂とか入った仲・・・
つて、何言つてんだ俺は

・・・オーバーヒートした

「・・・い、おーい、だいじょうぶ??」

「!?!??」

気が付いたら柚季が俺の目の前で手をぶんぶん振つてた

「っ! あ、ああ・・・」

「あのねー、ちゃんと話は最後まで聞いてねー?」

・・・ん?

なんだ?最後までつて

「私と付き合つてほしいの

・・・一年間だけ」

・・・

・・・

・・・

・・・ん?

またしても思考が停止している俺を見て、
腰に手をあてたまま

仁王立ちで

ほほを膨らましなから

柚季が言った

「だぁーからー、私と“いちねんかんだけ”お付き合いしてほしいの！」

「はぁ！？？」

なんだそれ

なんだそれ

ナンダソレ！！！！

「なんだそれ！！意味がわかんねえ！！」

「まあ、そうだろうねえ」

「ってゆか、お前俺のことなめてんの？」

イライラする

意味がわからねえ

何だ一年って

「だってヒロトとりあえず一年間留年じゃん？」

「・・・まあな」

「クラスに知り合いいなくなるじゃん？」

「・・・まあな」

「つままないでしょ？」

「・・・」

なんなんだ、いじめ？いじめですか？？

なに人の傷えぐってくれちゃってるのさ！

「だからね、そんな灰色の一年間にこの柚季ちゃんが色を与えてあ

げようと思つて」

言い終えてにつこり振り向いた瞬間

俺は袖季に背を向けた

「ああ、はい、ガンバッテ」

そのまますたすた歩き出そうとしたら

思いつき服を引つ張られた

「なーんーでーいつちゃうのー」

「意味わかんねえからだよ！やめろ！！服が伸びる！！」

「やーめーなーいー！！」

「・・・ああ！もう！離せこら！！」

ドン！！

「・・・あ」

「いつ・・・た」

思いつき突き飛ばしてしまつた

袖季は床に尻もちをつく体制で振り落とされた

「・・・わりい・・・」

「・・・ほんき・・・だよ？」

ゆつくり起き上がりながら袖季が言つ

「ほんきだよ？」

私たちお隣同士だけど

お互いのことよくわかつてないけど

私のこと嫌いじゃなかったら

おねがい

最初で最後のわがままだから」

必死だつた

目に涙をためて精一杯笑つてるあいつの顔が

本気だつて言つてる

「・・・はあ・・・」

「なんで一年？」

「・・・」

「・・・なんで俺なわけ？」

「ヒロトじゃなきゃいや」

「なんで？」

「好きだから」

「・・・」

「ストレートだ

っていうか

今までこいつがこんなに必死に、真剣に

人に・・・いや、俺に話をしてくることはなかったように思える

最初で最後のわがまま・・・か

「きっかり一年だぞ？」

「・・・え？」

「きっかり一年。

約束したからには

最後まで付き合ってやるよ」

理由もわかんねえのに

俺もお人よしだと思う

ただ、

柚季の必死な姿が

すっげえ小さく見えた

「ほん・・・とに？」

「おまえが言い出したことだろ？」

「ほんとにいいの？」

「・・・ああ

しょうがねーからつきあってやるよ」

そう言って柚季の頭をぐしゃぐしゃとなでてやった

・・・まあ、いいか

こいつかわいいし（笑）

「ありがとう」

柚季は

そう言って花のように笑った

簡単に見えるかもしれないけど

俺と柚季は

ここから始まった

一緒に歩き出した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9278h/>

3 6 5 D a y s

2010年10月10日01時04分発行